広島大学

第 196 回 学長定例記者会見　発表事項 4

令和８年 10 月28 日

第 35 回ペスタロッチー教育賞
表彰式・記念講演を開催します

広島大学教育学部とペスタロッチー教育賞実行委員会は、優れた教育実践を行っている個人・団体を顕彰する第 35 回ペスタロッチー教育賞の表彰式及び記念講演を下記のとおり開催します。

記

受 賞 者：公文　和子　氏（くもん　かずこ）　シロアムの園　代表

表彰式・記念講演

日　　時：令和８年 12 月 14 日（月）12:50～14:20
　　表彰式 12:50～、記念講演 13:20～
場　　所：広島大学教育学部 L205 講義室
　　（東広島市鏡山一丁目１番１号）
主　　催：広島大学教育学部、ペスタロッチー教育賞実行委員会
後　　援：株式会社もみじ銀行、株式会社中国新聞社
プログラム：
- 主催者挨拶
  ペスタロッチー教育賞実行委員会委員長（広島大学長）越智光夫
- 祝　辞
  株式会社もみじ銀行取締役会長　小田宏史氏
- 表彰状授与及び胸像贈呈
  ペスタロッチー教育賞実行委員会委員長（広島大学長）越智光夫
- 記念品贈呈
  株式会社中国新聞社代表取締役社長　岡畠鉄也氏
- 記念講演
  公文　和子　氏（くもん　かずこ）　シロアムの園　代表

※記念講演終了後、記者会見を実施いたします。
※これまでの受賞者一覧等は、本学ホームページをご覧願います。
https://www.hiroshima-u.ac.jp/ed/about/ed_tokusyoku/pestalozzi

【お問い合わせ先】

広島大学教育学部内
ペスタロッチー教育賞実行委員会事務局　西木
Tel：082-424-7190　FAX：082-424-3478
E-mail：ed-ken-zai@hiroshima-u.ac.jp

第 35 回ペスタロッチー教育賞表彰式及び記念講演

日　　時　　令和８年 12 月 14 日（月）12:50～14:20
表 彰 式　12:50～
記念講演　13:20～

場　　所　　広島大学教育学部 L205 講義室
（東広島市鏡山一丁目１番１号）

主　　催　　広島大学教育学部、ペスタロッチー教育賞実行委員会

後　　援　　株式会社もみじ銀行、株式会社中国新聞社

受 賞 者　　公文　和子　氏（くもん　かずこ）
（シロアムの園　代表）

プログラム

１　開会の辞

２　主催者挨拶
ペスタロッチー教育賞実行委員会委員長（広島大学長）　越　智　光　夫

３　祝辞
株式会社もみじ銀行取締役会長　小　田　宏　史

４　表彰状授与及び胸像贈呈
ペスタロッチー教育賞実行委員会委員長（広島大学長）　越　智　光　夫

５　記念品贈呈
株式会社中国新聞社代表取締役社長　岡　畠　鉄　也

６　記念講演
公文　和子　氏（くもん　かずこ）
（シロアムの園　代表）

７　閉会の辞

【お問い合わせ先】
広島大学教育学部内
ペスタロッチー教育賞実行委員会事務局　西木
TEL：（082）424-7190
E-mail：ed-ken-zai@office.hiroshima-u.ac.jp

広 島 大 学

受賞者

公文　和子　氏（くもん　かずこ）
（シロアムの園　代表）



広島大学

広島大学

第35回 ペスタロッチー教育賞
表彰式・記念講演

日時　令和8年12月14日（月）12：50～14：20

12：50～ 表彰式　13：20～ 記念講演

会場　広島大学教育学部　L205講義室

参加のお申し込み

QRコードまたはURLをご利用ください

申込期限：12月10日（木）

※定員になり次第締め切り

https://forms.cloud.microsoft/r/PmRYG6Kx3B

第35回受賞者



シロアムの園　代表

公文（くもん） 和子（かずこ） 氏

和歌山県生まれ，東京育ち，北海道大学医学部出身，クリスチャンの小児科医。
2000年イギリスにて熱帯小児医学を学び，東ティモール，シエラレオネ，カンボジアでの医療活動を経て，2002年よりケニアにてJICA（国際協力機構），NGOなどの保健医療関係の仕事に従事。
2015年ナイロビ郊外に障がい児とその家族のためのキリスト教主義の施設「シロアムの園」を創設。
シロアムの園は，障がい児や家族に対する療育やケア，社会的・経済的な自立支援，地域社会の障がいに対する理解の促進など包括的支援事業を行っている。

ヨハン・ハインリヒ・ペスタロッチー（1746年～1827年）



Johann Heinrich Pestalozzi

スイスの教育家・教育思想家。教育の機会を与えられていなかった孤児や貧困家庭の子どもを対象に，「頭と心と手」の全人的教育の重要性を唱え，自ら学校を開いて，その有効性を世に示した。
著書「隠者の夕暮」他

ペスタロッチー教育賞

広島大学教育学部では，株式会社もみじ銀行，株式会社中国新聞社の支援を得て，今日，我が国の極めて困難な教育状況の中で，優れた教育実践を行っている個人あるいは団体を顕彰するため，1992年に「ペスタロッチー教育賞」を創設しました。本賞は，ペスタロッチー精神に通じた教育実践を行っている個人あるいは団体に光を当て，その功績を顕彰することにより，もって現代の教育を見つめ直すきっかけとなることを期するものです。

お問い合わせ先

広島大学教育学部内 ペスタロッチー教育賞実行委員会事務局

✉ed-ken-zai@office.hiroshima-u.ac.jp　☎082-424-7190

主催　広島大学教育学部　ペスタロッチー教育賞実行委員会

後援　株式会社もみじ銀行　株式会社中国新聞社

【第３５回ペスタロッチー教育賞受賞者紹介文】

第３５回ペスタロッチー教育賞受賞者に、公文　和子（くもん　かずこ）氏が選ばれましたので発表いたします。

【第35 回ペスタロッチー教育賞　受賞者】
公文　和子（くもん　かずこ）（シロアムの園　代表）

【略歴】
和歌山県に生まれる。北海道大学医学部を卒業後、小児科医として活躍。2000 年イギリスにて熱帯小児医学を学び、東ティモール、シエラレオネ、カンボジアでの医療活動を経て、2002 年よりケニアにて JICA（国際協力機構）、NGO などの保健医療関係の仕事に従事。2015 年ナイロビ郊外に障がいのある子どもとその家族のためのキリスト教主義の施設「シロアムの園」を創設。障がい児や家族に対する療育やケア、社会的・経済的な自立支援、地域社会の障がいに対する理解の促進など包括的支援事業を行っている。その経験を基にした著作として、『グッド・モーニング・トゥ・ユー』（いのちのことば社）2021 年、『マリアが笑った！』（いのちのことば社）2026 年など。『情熱大陸』（2024 年）、『プロフェッショナル～仕事の流儀』（2025 年）で取り上げられ、クーリエジャポン「2023 年に世界が注目した日本人 100」（2023 年）に選ばれるなど、その活躍は広く評価されている。

【授賞理由】
公文氏は、障がいのある子どもに対する偏見や差別が色濃く残るケニアで「シロアムの園」を設立し、一人ひとりの異なるニーズや可能性に寄り添うとともに、家族への社会的支援や地域社会への啓発までを含む包括的なケアを実践してきた。今回は、社会の中で周縁に置かれてきた障がいのある子どもやその家族へ手を差し延べ、困難な状況でも真摯に活動に従事してきたことが評価されての受賞となった。
公文氏は、日々多くの子どもの命が失われる現実に無力さを感じたシエラレオネでの挫折を乗り越え、一人ひとりの子どもが尊厳をもって共に生きることのできる場所をつくってきた。ある子どもの笑顔に心を打たれたことを契機に、「救いたい」という動機に傲慢さを感じた公文氏は「共に生きたい」を大切にして、目の前の子どもの可能性を信じ、尽くしてきた。実際、「シロアムの園」では、周囲の目を気にして家に閉じ込められたり、厳しい経済的・社会的状況から十分なケアを受けられなかったりして自己肯定感の低い子どもたちの「命が喜ばれる」ように、一人ひとりの名前を呼び、誕生日を祝い、毎朝の通園を笑顔で迎えるなどしている。また、厳しい経済状況や周囲の無理解の中で障がいのある子どもを育てる親の自立支援や精神的な支えとなるべく、古着を活用した事業によって経済的な支援を行うとともに、親が互いに日々の葛藤を共有したり、「世話する人」ではなく「自分自身」でいることのできる場所をつくっている。さらに、コミュニティ・オープンデーを開催して、迷信や忌避感を持つことも多い地域の人たちが、障がいに対する正しい情報や障がいのある子どもへの包括的なサービスの重要性に気づく機会を設けることで、子どもとその家族が自分らしく生きることのできる社会の構築も目指している。
子どもと家族を「支援される存在」としてのみ捉えるのではなく、それぞれが持つ力を活かし、「友」として繋がりながら生きることを支える公文氏の姿勢は、ケニアにとどまらず、国境を越えて共感を呼んでいる。できないことを嘆くのではなく、できることを常に考え、障がいのある子どもやその家族を支え続けてきたその活動は、戦争で親を失い、貧困にあえぐ子どもに可能性

を見いだし、身を捧げたペスタロッチーの教育理念に沿うものであり、第 35 回ペスタロッチー教育賞を贈呈し、その優れた功績を顕彰したい。

ペスタロッチー教育賞　歴代受賞者

	表彰式実施年度		個人・団体		備考
	（西暦）	（和暦）	教育賞	特別賞	
第1回	1992	H4	宮城　まり子		
第2回	1993	H5	谷　昌恒		
第3回	1994	H6	児玉　三夫		
第4回	1995	H7	山田　洋次		
第5回	1996	H8	NHK名古屋放送局テレビ番組「中学生日記」制作スタッフ		
第6回	1997	H9	本吉　修二		
第7回	1998	H10	黒柳　徹子		
第8回	1999	H11	社会福祉法人広島新生学園		
第9回	2000	H12	丸木　政臣		
第10回	2001	H13	佐野　浅夫		
第11回	2002	H14	社会福祉法人似島学園		
第12回	2003	H15	九里　茂三		
第13回	2004	H16	中野　光		
第14回	2005	H17	アグネス・チャン		
第15回	2006	H18	津守　眞		
第16回	2007	H19	舜地　三郎		
第17回	2008	H20	松田　実		
第18回	2009	H21	西谷　英雄		
第19回	2010	H22	金森　俊朗		
第20回	2011	H23	髙谷　清	あしなが育英会	※1
第21回	2012	H24	一般社団法人「実践人の家」		
第22回	2013	H25	奥地　圭子		
第23回	2014	H26	水谷　修		
第24回	2015	H27	渡辺　和子		
第25回	2016	H28	湊　晶子		
第26回	2017	H29	中本　忠子		
第27回	2018	H30	和田　晋、児童養護施設舞鶴学園		※2
第28回	2019	R1	大石　由紀子		
第29回	2020	R2	村井　実		
第30回	2022	R4	MISIA		※3
第31回	2022	R4	北川　聡子		
第32回	2023	R5	特定非営利活動法人 学習障害児・者の教育と自立の保障をすすめる会　見晴台学園		
第33回	2024	R6	森下　弘		
第34回	2026	R8	杉　良太郎		※4
第35回	2026	R8	公文　和子		

※1　第20回を記念し、「教育賞」に加え「特別賞」も授与。

※2　1個人と1団体に「教育賞」を授与。

※3　コロナ禍のため2021年度ではなく、2022年度に実施。

※4　受賞者のご都合で2025年度ではなく、2026年度に実施。